

大阪大学で初の出前講座

工学部の3・4年生51人が組立て体験

関西鉄筋工業協同組合（岩田正吾理事長）と関西圧接業協同組合（濱野功理事長）は5月9日、大阪府吹田市の大阪大学吹田キャンパスで同大学の工学部の3・4年生51人を対象に出前講座を開催しました。阪大での出前講座は初めてとなります。

今回の出前講座は「学生たちに鉄筋の組立て作業を実際に体験してもらうことで、鉄筋コンクリートを身近に感じてほしい」（倉本洋教授）との思いから実現したものです。

講座では最初に、岩田理事長が専門工事業から見た建設業界の現状や技能労働者が減少した理由・背景などについて説明。受講した学生たちには「建設業の次の時代を担うのは皆さんだ。職人はものづくりに誇りと喜びを感じて仕事をしています。皆さんも将来建設業に携わると思うが、その時は職人たちの気持ちも理解できる人になってほしい」と期待を寄せました。次いで、圧接組合の浜崎仁副理事長は、原子レベルで接合させるガス圧接の原理や仕組みを説明しました。

その後、学生は5班に分かれ、現在その創設に向けて検討している3級鉄筋技能士の実技試験問題の柱・梁の実物の鉄筋組立作業に取り組み、現場の第一線で働く職人らの指導を受けながら、ハッカーを使って結束作業を行いました。この間には、班ごとに圧接作業の実演の見学と実際にガスバーナーを使って学生による体験も行われました。講座を終えた後の質疑応答では、鉄筋組合の戸田裕雄副理事長や圧接組合の濱野理事長らが学生たちの質問に丁寧に応えていました。

※ 今回の出前講座に参加、協力をいただいた組合関係者は次のとおりです。

- ・ 岩田理事長（正栄工業）、戸田副理事長（戸田鉄筋）、田浦副理事長（田浦）、森山氏（城東鉄筋）、恵谷氏（恵谷鉄筋）、長木氏（長木鉄筋）、田村氏（田村工業）、福本氏（福本鉄筋工業）、職人3名（戸田鉄筋、田村工業、城東鉄筋より各1名）

座学の様子



実技の様子

